

## 清水安三

1891年（明治24年）

滋賀県高島郡新儀村北畑（現在の高島市新旭町北畑）に生まれる

～近江聖人「中江藤樹」の郷里に近く、幼少時代から藤樹に夢を抱く～

1906年（明治39年）

滋賀県立第二中学校（明治41年 膳所中学に改称）（現在の膳所高校）に入学

英語を教えていたウィリアム・メレル・ヴォーリズ先生と巡り合う。



ヴォーリズ先生は、先に記したように、当時上級生の英語の授業を担当し、放課後には、自らバイブルクラスを設けていた。安三は、入学したばかりの1年生、珍しい外国人教師を一目見ようと校門に待機していたところ、ヴォーリズ先生に強引に連れて行かれ、バイブルクラスを受けることになる

当時、八幡（近江八幡）から馬場（膳所）へ汽車で通っていたヴォーリズ先生を、馬場の停車場まで送り迎えしていたと記されているほどに、安三は、先生に親しみを感じるようになり、木曜日のバイブルクラスを心待ちにしていた。

まさにここが、安三のキリスト教精神の始まりであり、安三のその後の人生に大きな影響を及ぼすことになる

1910年（明治43年）

膳所中学を卒業、同志社大学神学部に入學

1915年（大正4年）

同志社大学を卒業

このころ、米人宣教師ホーレス・ペトキンの影響を大きく受ける

1917年（大正6年）

日本組合基督教会の宣教師として中国に渡る

宣教活動の傍ら、近隣の子供たちを集めて児童館活動を開始

横田美穂さんと結婚し、ご夫婦でこの児童館を経営に取り組む



1919年（大正8年）

北京に移り、日本からの寄付を受けて、大干害で飢えに苦しむ人々の救済活動に取り組む。

安三夫婦は、約800人の子供たちの生活の面倒を看、初等教育を施した。

また、朝陽門外が「中国随一のスラム街」と言われる惨状となっており、子供たちは飢餓に苦しみ、犯罪を行い、女の子は売春され、読み書きはもちろんできなかった。

安三は、ここに女学校を作ろうと考え、美穂も賛成をした。

1921年（大正10年）

安三の功績に中国側からの報奨金もあり、29才の時、崇貞工読女学校を創立（1936年崇貞学園と改称）する中国人、朝鮮人、日本人分け隔てなく教育し、安三は「北京の聖者」と称された。

ここに桜美林学園の源がある。

崇貞学園の初代校長は、美穂先生だった。

当時の教育は、午前中が、普通の授業、午後は手芸教育。ハンカチ、靴下編み、タオル織り、さらには、フランス刺繍によるテーブルクロスなどを製作し、北京や、天津の西洋人に売った。

安三は、日本に帰った際、これらの商品をヴォーリズに買ってもらったとある。

ヴォーリズのメンソレータムを安三が中国で売って、資金を調達していた記述もあり、膳所中学卒業後も交流があったことがわかる。

## 1924年～1926年

崇貞工読女学校開設3年後—教育が軌道に乗り始めたころ、安三はオハイオ州オベリン大学に留学をする  
そこで、校名の由来にもなった牧師ジャン＝フレデリック・オベリンの教育思想に出会う  
オベリンの思想

“Learning and Labor” → 「学而事人（がくじじじん：学びて人に仕える）」である

（この教えは、今も桜美林学園のモットーとして大切にされている）

オベリンは、1768年に世界で初めて子供の学校を創設した人物であり、「国と国の争いや宗教の対立に関係なく、幼子が人として健やかに成長する」ことを願って、困窮から子供たちを守るために教育の業を実践した人物  
安三の思いとまさしく合致し、この留学が安三の心をより一層深いものとしたことは言うまでもない

～「清水安三を語る」黒田芳嗣によると、「学而事人」は、中江藤樹の教育理念、創学精神「耕読」→「工読」  
（Labor and Learning, 工かつ読書）という説もある

崇貞学園の経営のため、安三は、日本に戻り、同志社大学の講師をしたり、週刊雑誌を編集したり、その経営を支えた。10年近く美穂先生は一人で女学校を切り盛りするが、結核にかかり、38歳の若さで命を落とすことになるが、二人目の妻小泉郁子が、崇貞学園の教育を完璧に引き継いでゆく

1937年 日中戦争が勃発。安三と郁子の活動は続けられたが

1945年 戦争が終わり、ついに崇貞学園の全施設接収命令が出される

1946年 3月16日 安三は、夫婦で中国を去る。無一文であった

帰国後、偶然出会った賀川豊彦に現在の地である東京都町田の地を紹介され、教育の再開を決意する

同年5月5日

桜美林高等女学校（桜美林学園）を開校。

幼稚園、中学校、大学、大学院まで発足させた。

大学・大学院では、中国の学生を受け入れ、中国の言葉、文化、思想も教え、日中の架け橋となる人材、また、常に希望を持ち、国や人種の垣根を越えて人々の痛みを理解できる人材を育てるために尽力

現在も桜美林学園は、「隣人に寄り添える心を持つ国際人」の育成を目指し、「学而事人」の精神を受け継ぎ、1921年の崇貞学園の設立から来る2021年に100周年を迎えることになる

<参考資料>新女苑 第三巻 第五号「私の先生ウィリアム・メレル・ヴォーリズ」清水安三、向学新聞  
清水安三先生顕彰会ホームページ、桜美林学園ホームページ「創立者 清水安三の思想を人生」

